

関東民放クラブだより

秋の懇親会 35周年控え華々しく開催

渡部英綱(TFM)

令和元年11月15日(金)秋空の下、関東民放クラブ「秋の懇親会」が半蔵門FM東京ジェットストリウムで賑やかに開催された。今年「令和」時代の幕開けとあって会場はいつになく明るく元気そのもの。

懇親会は午後1時半開会。まず民放クラブ村上光一会長が「令和2年に関東民放クラブは創立35周年を迎えるので景気をつけようと、事務局がいつもと異なった趣向を用意した。また人生100年、長寿の時代を迎えるので、そのエネルギーを蓄えて頑張っていきたい」



乾杯!

と挨拶された。あと来賓7名の紹介に移り、鈴木正勝関西民放クラブ理事長の乾杯の発声で宴がスタートした。

アトラクションのトップは砂田郁郎さん指揮KMGコーラスの元気な歌声で「秋」をテーマに「真っ赤な秋」「もみじ」「落葉松」等を熱唱。ウクレレの会は「マウイガール」「アカカの滝」「真珠貝の歌」などハワイに因んだ曲を中心に演奏、会は大きく盛り上がった。

懇親会後半、初の試みとして企画された、盆ダンス(盆踊り)は、千葉県で活躍する盆踊りグループ「かがやきの会」が浴衣姿で輪になって登場。「花笠音頭」「炭坑節」「東京音頭」や盆ダンスを披露。

参加者も時折折輪に入り、季節外れの盆踊りを楽しんだ。

アトラクション最後の企画はジャンケンポン大会。会員の柴崎通子さんの名司会で進行し、ジャンケンで勝ち残った人が在京の放送局などから寄贈された賞品を手しながら、秋の懇親会は関西民放クラブ森本征夫事務局長の大阪締めで無事幕を閉じた。



盆ダンス



ジャンケンポン大会

陶芸クラブ

穴吹 千賀子(事務局)

陶芸の会に入って2年が経った。まさか自作のカップでコーヒーを飲み、大好きな赤ワインを自作のグラスで愉しめるなんて、まさに「酔在夢」。この言葉を教えてくれたのは、陶芸キャリア18年の教室の大先輩、中村登紀夫さん。このクラスになると、出会う人へのプレゼントに作品づくりを楽しんでいるように見える。

ある日、機会がありうかがうと、

日本酒大好きな歯学博士さんには、大きなぐい呑みに「酒なくて何の己の桜かな」と文字を入れ、この桜は、花の絵を描いたそう。

また脳梗塞の後で通っている美人先生には、ビアマグにローマ字で名前を入れて差し上げたら、「ビール美味しかったわ」。

そして、秋の懇親会に出品の最新作は、明るめのブルーに「爽」の一字。字のとおり、さわやかで素敵なビールグラスだ。さて、どのどなたに贈られるのかしらん。「酔在夢」とは、酔って夢あり、とそのままに読み、よく揮毫に使うそうです。粹人、登紀夫さん。

